

## &lt;検討の背景&gt;

- 能登半島地震では学校の校舎やグラウンド等が被害を受け、教職員も被災者となる中、多くの学校で避難所開設され学校再開に必要な人員が不足
- こうした中で、子供たちの学びを速やかに確保するため、被災地外からの教職員等の派遣による支援が重要な役割を果たしたが、被災地での支援ニーズ等の迅速・的確な把握や、5県が設置する学校支援チームと国との連携体制などに課題があつた。

**発災** 救命避難・生命確保期  
(発災～数日程度)

生活確保期  
(数日～数週間程度)

教育活動再開期  
(数週間～数か月程度)

施設被害や教職員の被災等の課題がある学校で被災地の教職員等と連携した外部支援が必要

被災した学校現場で支援を要する課題例：

- 児童生徒等の安否確認
- 避難所開設支援

- 避難生活中の学習支援
- 心のケア
- 教育活動再開支援

- 学校運営の支援
- 教育活動の実施

## &lt;学校支援チームとは&gt;

- 訓練された教職員等が被災した学校の支援（学校再開のための環境整備、心のケア等）のため派遣
- 兵庫・熊本・三重・宮城・岡山の5県でチームを設置
- 能登半島地震でも、発災直後から各県チームが独自に被災地に入り、学校の早期再開に向けて支援を実施

9月の能登豪雨でもD-ESTの一環として文科省職員等を派遣しニーズ等を把握して支援に繋げたところ、**今後の大規模災害に備え、被災地での速やかな学びの確保**を図るため、被災地外からの教職員等の**派遣枠組み(D-EST)**を構築し、その実質化を図る。

Disaster Education Support Team

## 被災 自治体/学校



災害時

## 受援体制の確保

- ✓ 支援ニーズの集約
- ✓ 連絡窓口の一元化

平時

- ✓ 学校支援チーム等の取組への理解
- ✓ NPO法人等の支援団体との連携協定を締結

※文科省職員が派遣ニーズ等を確認した上で支援自治体と共有し、派遣を調整

支援  
自治体

災害時

## 学校支援チーム派遣

※派遣先の調整は全国知事会等による



平時

- ✓ 学校支援チームの設置
- ✓ チーム員の養成
- ✓ ハンドブックの作成

災害時

## 教職員派遣

- ✓ 学習指導・生徒指導を行う教職員不足への対応
- ✓ 派遣候補者リストの作成
- ✓ 平常業務との分担を予め検討

平時



関係団体

## SC派遣

※SC:スクールカウンセラー

## ①文科省職員等の派遣



- |     |                    |                |
|-----|--------------------|----------------|
| 災害時 | ✓ ソフト・ハードの状況・課題を把握 | ✓ 学校施設の応急危険度判定 |
| 平時  | ✓ 派遣候補者リストの作成      | ✓ 活動拠点の確保      |
|     | ✓ 技術職員の養成、研修の充実    |                |
|     | ✓ 派遣時の手順を提示        |                |

## ②学校支援チームとの連携・サポート



- |     |                         |                |
|-----|-------------------------|----------------|
| 災害時 | ✓ 現地情報の共有               | ✓ 必要に応じ、派遣調整   |
| 平時  | ✓ 支援自治体からの要請に対応         |                |
|     | ✓ 学校支援チームの創設・取組充実の支援    |                |
|     | ✓ 先行事例の紹介               | ✓ 自治体との連携体制の構築 |
|     | ※R6補正「災害時学校支援体制構築事業」を活用 |                |

## ③教職員・SCの派遣調整



## 教職員派遣の調整

- ✓ 派遣時の手順や留意点を提示